

様式第1号(第9関係)

意見検討結果一覧表
 案名：令和7年度以降の岩手県立高等学校入学者選抜について（素案）

番号	分類			内容	類似意見 件数(件)	検討結果（県の考え方）	決定への 反映状況
	記号	大区分	小区分				
1	I	日程について		受検生が進路選択にかかる時間が増え、高校入学の準備期間に余裕ができるため、入試日程の変更に賛成である。	2	入試日程につきましては、生徒がより時間をかけて適切な志願先高校を検討、選択できるように見直します。制度の詳細について見直しの趣旨に沿った検討をすすめてまいります。	C趣旨同一
2	I	日程について		1月の推薦入試に関わる事務作業がなくなるため、中学校教員の負担が軽減されると思う。		入試日程につきましては、入試期間の短縮によって、入試事務に携わる中学校及び高等学校教職員の負担も軽減されるものと考えています。	C趣旨同一
3	I	日程について		高校入学の準備期間を十分にとりたいため、入試全体の日程を早めてほしい。ただし、卒業式の実施に影響があるため合格発表日は現行のままとしてほしい。	2	現行の入試日程につきましては、高校入学の準備期間が十分にとれない生徒がいる状況から、検査日を3日程度早めることとします。今後も、生徒や各中学校及び高校の授業や行事に与える影響を考慮しながら、具体的な日程について検討してまいります。	C趣旨同一
4	I	日程について		「生徒がより時間をかけて志願先高校を検討できるように」とあるが、現状でも進路の検討は一年生から段階的に十分に時間をかけて行っている。進路が定まった生徒については、受検の負担から早期に解放されることもあり、早めに進路を決定できるほうが安心である。	2	特色入試の実施時期につきましては、生徒がより時間をかけて適切な志願先高校を検討、選択できるように見直しを行うところですが、生徒が落ち着いて中学校の授業を受けられる期間を確保することもあわせて配慮したところです。	E対応困難
5	I	日程について		入試を2日間で実施することは、精神的、体力的に酷であると思う。		入試日程の見直しに伴って、生徒にとって過重な負担とならないように、各高校の検査内容等を工夫しながら実施してまいります。	B一部反映
6	II-1	特色入試の在り方	出願	最近の部活動加入の任意制と中学校部活動の地域移行への流れを考えると、学校での部活動の実績を重視する現行の推薦基準を見直すべき。	1	現行の推薦入試につきましては、部活動参加の任意化、生徒の主体的な参加が進められている現状を踏まえて見直します。制度の詳細について見直しの趣旨に沿った検討を進めてまいります。	C趣旨同一
7	II-1	特色入試の在り方	出願	少子化が進み、部活動の選択肢が限られる中、子どもたちの活動が多様化している。学校という枠にとらわれずに、部活動以外の様々な学校外の活動も選抜において十分に評価される特色入試の導入に賛成である。	4	現行の推薦入試につきましては、生徒の活動の多様化や部活動参加の任意化といった現状を踏まえて見直し、特色入試とします。制度の詳細について見直しの趣旨に沿った検討を進めてまいります。	C趣旨同一
8	II-1	特色入試の在り方	出願	特色入試で多様な資質・能力を多面的に評価するために調査書の記述欄を充実するなど、出願書類を改善する必要がある。		出願書類の様式につきましては、選抜にあたって必要な内容を踏まえて見直しを図っていきます。	C趣旨同一
9	II-1	特色入試の在り方	出願	学校が求める人材について、例えば部活動で実績を残した生徒を求めるのであれば、アドミッション・ポリシーに具体的に示すべき。	4	特色入試で各高校が求める生徒像については、各高校のアドミッション・ポリシーをもとに具体的に分かりやすく示すこととしています。	C趣旨同一
10	II-1	特色入試の在り方	出願	各高校のアドミッション・ポリシーを、生徒が正確に理解するために、中学校教員の支援が必要になると考えられる。		各県立高校のアドミッション・ポリシーにつきましては、その策定にあたって、誰からも分かりやすい表現とするようにしております。県立高校入試では、アドミッション・ポリシーに基づいて特色入試で求める生徒像を具体的に分かりやすく示すこととしています。	C趣旨同一
11	II-1	特色入試の在り方	出願	県立高校の普通科が特色的なスクール・ポリシーを策定できるか疑問を感じる。		各県立高校のスクール・ポリシーにつきましては、各学校に期待される役割を踏まえて、地域の実情や在籍する生徒の実態に基づいて策定しています。	Fその他

番号	分類			内容	類似意見 件数(件)	検 討 結 果 (県 の 考 え 方)	決定への 反映状況
	記号	大区分	小区分				
12	II-1	特色入試 の在り方	出願	地域に高校が1つしかなく選択の余地がない受検生は、高校生活に望むことと、アドミッション・ポリシーとの不一致が生じるのではないかな。		各県立高校のスクール・ポリシーにつきましては、連携する地域や関係機関等と協議しながら、地域の実情や各学校に期待される役割を踏まえて策定しています。今後も、スクール・ポリシーの見直しを連携する地域や関係機関と協議しながら行っていく、地域から求められる役割を果たしてまいります。	F _{その他}
13	II-1	特色入試 の在り方	出願	特色入試を受検するためには、一般入試への出願が必須なのか。		一般入試に出願した上で、特色入試への出願も可能としています。	F _{その他}
14	II-1	特色入試 の在り方	出願	特色入試では具体的にどのような生徒を募集するのか。現行の推薦入試の応募資格との違いを知りたい。		現行の推薦入試では、スポーツ・文化活動で顕著な実績を持つ生徒、将来の職業選択や社会貢献に強い意欲を持っている者を対象として、各高校が具体的な推薦基準を示して行いますが、特色入試では、各高校がアドミッション・ポリシーに基づいて特色入試で求める生徒像を示して行うように見直します。各高校の特色入試で求める生徒像は、今後、一般入試及び特色入試の検査内容や選抜方法とあわせて周知してまいります。	F _{その他}
15	II-1	特色入試 の在り方	出願	アドミッション・ポリシーの他にディプロマ・ポリシーも必要であると思う。		スクール・ポリシーにつきましては、各高校においてグラデュエーション・ポリシー（育成を目指す資質・能力に関する方針）及びカリキュラム・ポリシー（教育課程の編成及び実施に関する方針）をアドミッション・ポリシー（入学者の受入れに関する方針）とあわせて「三つの方針」として策定しています。	F _{その他}
16	II-1	特色入試 の在り方	出願	出願資格について、実績だけではなく、取り組んだ内容も考慮すべきである。	2	特色入試の出願につきましては、実績（大会の成績等）が一定以上であることを出願の要件とはせず、各高校がアドミッション・ポリシーに基づいて示す特色入試で求める生徒像を参考に、生徒が自己推薦で出願することとしています。また、評価につきましては、実績を評価するのではなく、生徒が日常的な活動で身につけた資質・能力を検査で評価することとしています。	C _{趣旨同一}
17	II-2	特色入試 の在り方	検査・ 選抜	部活動だけではなく、学習面で努力した生徒にもチャンスを与えてほしい。		特色入試における学習面での努力に係る評価につきましては、検査内容に調査書を含めているところであり、学習面での努力も含めて日常的な活動で身につけた資質・能力を検査で評価することとしています。	C _{趣旨同一}
18	II-2	特色入試 の在り方	検査・ 選抜	現行の部活動の実績を重視した選抜ではなく、検定試験（英語検定、数学検定、漢字検定など）や研究発表の実績等を選抜の材料とすることを提案する。	1	特色入試につきましては、現行の推薦入試を見直し、生徒が多様な活動において身につけた資質・能力を各高校が検査で評価することとしたものです。	D _{参考}
19	II-2	特色入試 の在り方	検査・ 選抜	特色入試の検査方法が多岐にわたると、受検生への負担が増すのではないかな。		各高校の検査内容につきましては、生徒にとって過重な負担とならないように配慮しながら実施してまいります。	B _{一部反映}
20	II-2	特色入試 の在り方	検査・ 選抜	特色入試を受検する生徒が学力検査を受検するのはなぜか。余計な負担になるのではないかな。	1	現行の制度におきましても、推薦入試の合格者に対して、合格後に学習に対する意欲を持たせ続け、合格者の基礎学力を担保するために、一般入試検査日に学力検査問題による学力調査を実施しています。新制度においても、合格者の基礎学力を担保する観点から学力検査を受検することとしています。	F _{その他}
21	II-2	特色入試 の在り方	検査・ 選抜	話すことが苦手な受検生にとって、口頭試問やプレゼンテーションといった検査は不公平であると思う。		特色入試の検査につきましては、各高校のアドミッション・ポリシーを踏まえ、特色入試で求める生徒像に基づいて、内容を決定するものです。検査の実施にあたっては、表面的な部分のみを評価することなく、生徒の資質・能力を適切に評価していきます。	C _{趣旨同一}

番号	分類			内容	類似意見 件数(件)	検 討 結 果 (県 の 考 え 方)	決定への 反映状況
	記号	大区分	小区分				
22	Ⅱ-2	特色入試 の在り方	検査・ 選抜	受検者の資質をしっかりと見極めるため、一次選考、二次選考というように時間をかけて丁寧な選考を行うべき。		特色入試の選抜につきましては、生徒の資質・能力を適切に評価した上で実施できるように、いただいた意見を参考にしながら検討してまいります。	B一部反映
23	Ⅱ-2	特色入試 の在り方	検査・ 選抜	中学校での受検生の活動を正確に把握するため、また、高校で何をどのように学びたいか把握するため、志願理由書の記載内容を工夫するべき。		志願理由書につきましては、選抜の資料となるように様式等を見直してまいります。	A全部反映
24	Ⅱ-2	特色入試 の在り方	検査・ 選抜	生徒や指導する教員の負担に鑑み、現行を引き継ぎ面接と実技のみなど、検査の種類を限定するべき。		検査内容につきましては、各学校の特色入試で求める生徒像に基づいて、決定していくものですが、生徒等にとって過重な負担とならないようにしてまいります。	B一部反映
25	Ⅱ-2	特色入試 の在り方	検査・ 選抜	学習障がいをもつ生徒についても、秀でた才能を生かせるような制度としていただきたい。		学習障がいのある生徒の評価につきましては、学習障がいがあることによって生徒が不利に扱われることがないようにしてまいります。また、多様な生徒の資質・能力を適切に評価できるようにしてまいります。	C趣旨同一
26	Ⅱ-2	特色入試 の在り方	検査・ 選抜	特色入試についても、学力を選抜の材料とすべきではないか。		特色入試における学力の評価につきましては、検査内容に調査書を含めているところであり、また、各学校が必要に応じて口頭試問等の検査を行うことから、生徒の学力を多面的に評価できるものと捉えています。	C趣旨同一
27	Ⅱ-2	特色入試 の在り方	検査・ 選抜	実績ではなく多様な資質・能力をどのように評価し数値化するのか知りたい。	4	特色入試の評価につきましては、各学校の特色入試で求める生徒像に基づいて検査内容や選抜方法を決定し、評価の観点や観点ごとの配点もあらかじめ公表することとしています。	Fその他
28	Ⅱ-2	特色入試 の在り方	検査・ 選抜	特色入試の合否判定が公平性や透明性に欠けるものになるのではないか。	2	特色入試の評価につきましては、各学校の特色入試で求める生徒像に基づいて検査内容や選抜方法を決定し、あらかじめ公表することとしています。評価の観点や観点ごとの配点もあわせて公表し、選抜の公平性が確保されるようにしてまいります。	C趣旨同一
29	Ⅱ-2	特色入試 の在り方	検査・ 選抜	実績を評価しなくなることで、スポーツ強化指定校で学びたいと考えるスポーツや文化活動に秀でた生徒にとって不利になるのではないか。実績を評価の材料の一部としてもよいのではないか。	1	特色入試につきましては、現行の推薦入試を見直し、生徒が多様な活動において身につけた資質・能力を各高校が検査で評価することとしたものです。	D参考
30	Ⅱ-2	特色入試 の在り方	検査・ 選抜	検査に対応できるような生徒を、普段の授業で育成できるようにするべきである。		特色入試の検査につきましては、多様な生徒の資質・能力を各高校の特色に応じて評価できる内容で実施します。中学校までの授業を含めた様々な活動での学びの成果が評価されるものと捉えています。	C趣旨同一
31	Ⅱ-3	特色入試 の在り方	日程	特色入試における受検生と教員の負担に配慮して、連続した入試日程を見直す必要がある。		特色入試につきましては、生徒にとって過重な負担とならないように、各高校の検査内容等を工夫しながら実施してまいります。また、入試期間の見直しによって、入試事務に携わる中学校及び高等学校教職員の負担も軽減されるものと考えています。	B一部反映
32	Ⅱ-3	特色入試 の在り方	日程	県外受入れへの影響が考えられるため、特色入試の実施日を一般入試と同日とすることに反対である。	1	県外からの志願者の受入れにつきましては、別途、より効果的にすすめていけるように検討を進めていきます。	D参考
33	Ⅱ-3	特色入試 の在り方	日程	現行の推薦入試を廃止すると、日程的な面で私立高校に流れる生徒が増加するのではないか。	4	私立高校への志願者の増加につきましては、生徒は自らのキャリア形成などを踏まえて、十分に時間をかけて志願先高校を検討していることから、県立高校の入試を1月に検査を行わなくなるのみをもって、私立高校への志願者が大幅に増加することはないものと捉えています。	Fその他
34	Ⅱ-3	特色入試 の在り方	日程	スポーツや文化活動を継続する生徒は早めに進路を決定しないと、パフォーマンスの維持のためのトレーニングやレッスンに専念できないのではないか。		入試日程につきましては、スポーツ・文化活動に取り組んでいる生徒も含めて、生徒が自らのキャリア形成を踏まえて、十分な時間をかけて志願先高校を検討できるように見直したところです。	Fその他

番号	分類			内容	類似意見 件数(件)	検 討 結 果 （ 県 の 考 え 方 ）	決定への 反映状況
	記号	大区分	小区分				
35	II-4	特色入試 の在り方	中学校 長推薦 の廃止	生徒の資質・能力を適切に評価するために、自己推薦ではなく学校長の推薦が必要ではないか。	1	生徒の資質・能力の評価につきましては、各高校のアドミッション・ポリシーを踏まえて、特色入試で求める生徒像に基づいて検査内容を決定することとしています。評価にあたっては、あらかじめ評価の観点を示し、適切な選抜が実施できるようにしていきます。	E 対応困難
36	II-4	特色入試 の在り方	中学校 長推薦 の廃止	校長推薦が不要となったことで、推薦入試と比較して、特色入試の志願者が大幅に増加するのではないか。	2	特色入試の志願者数につきましては、現行の推薦入試に比べて増加することも考えられ、適切に対応できるように検討してまいります。	D参考
37	II-4	特色入試 の在り方	中学校 長推薦 の廃止	校長の推薦を廃止することで、学力の低下や生活態度の悪化につながらないか。		多くの生徒が中学校長推薦を必要としない一般入試を受検している現行の入試制度において、中学校で適切に学習や生活に係る指導が行われていることから、大きな影響はないものと捉えています。	D参考
38	II-4	特色入試 の在り方	中学校 長推薦 の廃止	自己推薦とした場合、学校の助言の機会が制限されることとなり、生徒が適切な進路選択をできなくなる心配がある。		中学校での進路指導につきましては、これまでも生徒のキャリア形成の観点から、適切に行われているものと承知しており、自己推薦とすることにより、一層生徒が自らの在り方生き方を主体的に考え、適切な進路を選択していくことにつながるものと考えています。	D参考
39	II-4	特色入試 の在り方	中学校 長推薦 の廃止	校長推薦から自己推薦となり、保証の意味合いが弱まることで受検生が不安を感じるのではないか。	1	中学校長推薦を不要とすることによる生徒の不安につきましては、令和7年度入試の制度の詳細が理解される中で解消されていくように、できるだけ早く公表してまいります。	D参考
40	II-5	特色入試 の在り方	その他	特色入試に賛成である。学校長推薦がなくなることで、校内での選抜がなくなり、より主体的志望校選定を行おうとする意識が生徒と保護者に醸成されると思われる。また、中学生の多様な活動が評価されることとで、入学後の意欲につながると思う。	2	現行の推薦入試につきましては、生徒が各高校のアドミッション・ポリシーや求める生徒像を参考に、より主体的に志願先高校を選択できるように見直し、特色入試とします。制度の詳細について見直しの趣旨に沿った検討を進めてまいります。	C趣旨同一
41	II-5	特色入試 の在り方	その他	推薦入試の廃止により、受検校決定の際に安全志向を助長するのではないか。また、進路の決定を私立高校の出願前に終えているため、3月まで生徒の気持ちが持続するか不安がある。	1	生徒の志願先高校の決定につきましては、生徒は自らのキャリア形成などを踏まえて、十分に時間をかけて検討し、志願先高校を決定しており、現行の推薦入試を特色入試と見直すことが、生徒の志願先高校の決定に特別に大きな影響は与えるものではないと捉えております。	D参考
42	II-5	特色入試 の在り方	その他	同様の入試を連続して実施している他県の状況を踏まえているか。		他県の入試制度につきましては、具体的な見直しの内容を検討するにあたって参考としてきたところです。	Fその他
43	II-5	特色入試 の在り方	その他	特色入試の検査に関する中学校教員の指導の負担が増すのではないか。また、制度の変更により、中学校の進路指導の方法を変更する必要があり、その対応に苦勞することが想定される。	10	特色入試に伴う中学校教員の負担につきましては、各高校の選抜方法等をあらかじめ周知し、また、入試日程を従来よりも遅くすることで十分な時間をかけて準備できるようにし、各中学校で計画的かつ円滑に進路指導が行えるようにしてまいります。	D参考
44	II-5	特色入試 の在り方	その他	特色入試という呼称に違和感を感じる。	1	「特色入学者選抜」の名称につきましては、中学校長の推薦を不要とすることもあり、他県の例などを参考に決定したところです。	Fその他
45	II-5	特色入試 の在り方	その他	自己推薦にあたり、出願理由に保護者の意見記入を求めているかがか。		中学校においては、保護者との面談などを通して、保護者と連携しながら進路指導を行っており、特色入試の出願におきましても、引き続き、保護者と十分に連携をとりながら生徒が適切な進路を選択できるようにしていきます。	E 対応困難
46	II-5	特色入試 の在り方	その他	特色入試の受検者が大幅に増加した場合、高校の大きな負担となるのではないか。	1	特色入試の受検者数につきましては、現行の推薦入試に比べて増加することも考えられ、適切に対応できるように検討してまいります。	D参考
47	II-5	特色入試 の在り方	その他	生徒の主体性を重視するのであれば、「自己推薦入試」枠を設定し、現行の推薦入試を「学校推薦入試」などとして残してはどうか。		現行の推薦入試につきましては、部活動等の実績評価を見直すべきとの指摘や、部活動参加の任意化や生徒の主体的な参加が進められてきている状況を踏まえて制度を見直したところです。	E 対応困難

番号	分類			内容	類似意見 件数(件)	検 討 結 果 (県 の 考 え 方)	決定への 反映状況
	記号	大区分	小区分				
48	Ⅱ-5	特色入試 の在り方	その他	特色入試の定員があまり多くならないようにするべき。		特色入試の募集定員につきましては、現行の入試制度においても定員の多くについて一般入試で募集し、その上で定員の一部を推薦入試で募集することとしています。現行制度の定員の考え方を踏まえて、適切に設定してまいります。	A全部反映
49	Ⅱ-5	特色入試 の在り方	その他	特色入試を実施しない学校があってもよいと思う。		現行の推薦入試においても、希望する学校・学科が実施することとしていることから、各高校の判断により特色入試を実施できることとします。	A全部反映
50	Ⅱ-5	特色入試 の在り方	その他	特色入試のみを実施する学校があれば、中学校の学習指導も変わり、本当の意味での学びに変わるのではないかと。		岩手県立高校入試の考え方として、全県統一的な選抜として定員の多くについて一般入試で募集し、その上で定員の一部を特色入試で募集することとしています。特色入試で求める生徒像を分かりやすく示し、各高校・学科の学びを生徒及び中学校に周知していきます。	D参考
51	Ⅲ	一般入試 の在り方		検査や選抜の方法の変更に賛成である。「学力検査：調査書等」の比率を各学校で設定できるようになり、各高校の独自性を反映できる。自己アピールカードの廃止や面接を一律に実施しないことは現状を踏まえており、業務の効率化にもつながると思う。	4	一般入試につきましては、各高校の特色に応じた選抜が実施できるように学力検査：調査書等の比率や面接について見直します。制度の詳細について見直しの趣旨に沿った検討をしております。	C趣旨同一
52	Ⅲ	一般入試 の在り方		志望理由を考えるきっかけとなるだけでなく、高校進学後の指導にも生かせるため、キャリア教育の観点からも自己アピールカードを提出させるべきである。		中学校においては、3年間を見通して計画的なキャリア教育が行われているところです。生徒が中学校3年生までの自らの取組を振り返りまとめるキャリア・パスポートは、高校入学後は各高校に引き継がれることとしています。	E対応困難
53	Ⅲ	一般入試 の在り方		実技教科の評定が高い倍率で算出されることが不公平であると感じる。	2	調査書の各教科の評定の換算につきましては、学力検査を実施しない教科の比率を高くすることで、中学校で学習する全ての教科を公平に評価しようとするものです。	D参考
54	Ⅲ	一般入試 の在り方		面接は一律に実施すべきであると思う。オンラインの活用等により実施することができないか。		面接の実施につきましては、必要な学校においては、学校独自検査として面接を実施できることとし、有効な選抜資料とできるように見直すものです。	D参考
55	Ⅲ	一般入試 の在り方		評定は学校により基準が異なり、調査書と学力の相関が低いと、選抜における調査書の比重を低くするべきである。	3	調査書につきましては、学力検査を実施しない教科等の学力を把握できることや、中学校の一定期間における学習評価を踏まえることで、当該生徒の学力をより正確・公平に把握できることから、選抜における調査書の割合を一定以上とすることは意義があるものと捉えています。学力検査：調査書の比率について各高校が「7：3」、「6：4」、「5：5」、「4：6」、「3：7」の中から1つ選択して選抜を行うこととし、調査書の比率を低くすることも可能としています。	C趣旨同一
56	Ⅳ	その他		少子化に伴い受検者数が減少する中で、現状に合った内容であるため、改善案に賛成である。	1	令和7年度以降の県立高校入試制度につきましては、県立高校入試を取り巻く環境の変化に対応し、生徒一人ひとりの適切な高校選択、各高校の魅力化や特色化を一層進めるために見直しを行うものであり、制度の詳細について見直しの趣旨に沿った検討を進めてまいります。	C趣旨同一
57	Ⅳ	その他		オンライン出願を導入してほしい。	2	オンラインでの出願につきましては、導入済みの他県での例や、効果及び費用負担等についても検証しながら、今後、検討してまいります。	D参考
58	Ⅳ	その他		不登校や別室登校の生徒への配慮も必要ではないか。	1	不登校や別室登校の生徒への対応につきましては、現行制度においても欠席日数が多いことのみを持って志願者が不利に扱われることはないところで、新制度においても公平性の観点を踏まえながら対応してまいります。	C趣旨同一

番号	分類			内容	類似意見 件数(件)	検 討 結 果 （ 県 の 考 え 方 ）	決定への 反映状況
	記号	大区分	小区分				
59	IV	その他		今回の改善の一番の目的が何なのかわからない。		今回の入試改善の目的につきましては、県立高校入試を取り巻く環境の変化に対応し、生徒一人ひとりの適切な高校選択、各高校の魅力化や特色化を一層進めることなどとしています。	Fその他
60	IV	その他		2日間連続の日程であることや、特色入試の受検者が大幅に増加する可能性を考えると、中学校の教員に大きな負担がかかるのではないかと。	4	中学校教員の負担につきましては、入試期間が短縮されることで、入試事務に関わる負担が軽減されるものと考えています。また、新制度の詳細について、できるだけ早く公開していき、各中学校における進路指導が計画的かつ円滑に進めていけるようにしていきます。	D参考
61	IV	その他		学区制の見直しを（廃止も含めて）要望する。	1	県立高校の通学区域につきましては、平成30年に、外部有識者会議である「県立高等学校における生徒の多様な受入れのあり方に関する検討会議」から「当面維持することが望ましい。」との報告があり、現在のところ具体的な見直しの予定はありません。なお、同報告には「社会情勢の変化の状況によっては、通学区域のあり方全体について再考する余地はあると思われる。」ともあり、今後、県立高校入試を取り巻く状況の変化を鑑みながら、検討を行うことも考えられます。	D参考
62	IV	その他		保護者向けのオンライン説明会を実施してほしい。		保護者向けの高校入試に係る説明につきましては、入試に係る説明会は、例年、中学校を対象として実施し、中学校において細かな校内での手続等も含めて保護者に説明しているものと承知しています。なお、令和7年度以降の県立高校入試制度については、生徒及び保護者に対する資料を作成し十分に周知されるように工夫してまいります。	C趣旨同一
63	IV	その他		生徒、保護者、学校現場が混乱しないように、配点、募集定員、二次募集など具体的な制度の詳細の情報提供を随時行っていただきたい。	11	令和7年度入試制度の詳細につきましては、実施前年度となる令和5年度中に公表し、周知してまいります。	C趣旨同一
64	IV	その他		一般入試と特色入試で異なる学校への出願を不可としたことで、生徒の選択の幅が狭まり不利益となるのではないかと。	5	生徒の志願先高校の決定につきましては、現在の制度においても、推薦入試で不合格となった者の大半が一般入試でも同一校を受検している状況から、生徒の志願先高校の決定に大きな影響はないものと捉えております。	E対応困難
65	IV	その他		合否判定を特色→一般の順に行うことに疑問を感じる。		合否判定を行う順序につきましては、まず特色入試の受検者から合格者を決定し、次に特色入試不合格者を含む一般入試受検者から合格者を決定することとしています。あらかじめ特色入試の募集定員を定めて選抜を行うため、例えば、一般入試のみを受検する生徒が、合否判定を行う順序によって不利益を被ることはなく、公平な選抜を行うことができると捉えています。	Fその他
66	IV	その他		新制度の初年度に対象となる生徒への説明の時期が遅いのではないかと。新制度の詳細を早期に示してほしい。	2	新制度での実施開始時期につきましては、一般入試における調査書の各学年・教科間の配点の比重に変更がないことや、部活動参加の任意化等への対応は早急に取り組むべきものであること等から、令和7年度入試からとしています。今後、できるだけ早く、より具体的に周知を行い、円滑に実施できるようにしてまいります。	D参考
67	IV	その他		学区の扱いがどのようになるか知りたい。	1	県立高校の通学区域につきましては、平成30年に、外部有識者会議である「県立高等学校における生徒の多様な受入れのあり方に関する検討会議」から「当面維持することが望ましい。」との報告があり、現在のところ具体的な見直しの予定はありません。なお、同報告には「社会情勢の変化の状況によっては、通学区域のあり方全体について再考する余地はあると思われる。」ともあり、今後、県立高校入試を取り巻く状況の変化を鑑みながら、検討を行うことも考えられます。	Fその他

番号	分類			内容	類似意見 件数(件)	検 討 結 果 （ 県 の 考 え 方 ）	決定への 反映状況
	記号	大区分	小区分				
68	IV	その他		各高校の特色を持続的に保障するために、県として教員の配置や予算等について支援をすべき。	1	各高校への支援につきましては、これまでも各学校の経営計画を踏まえた教員の配置や各種事業の予算措置を行ってきたところであり、今後も状況に応じて必要な支援を行ってまいります。	F その他

区 分	内 容
A（全部反映）	意見の内容の全部を反映し、計画等の案を修正したもの
B（一部反映）	意見の内容の一部を反映し、計画等の案を修正したもの
C（趣旨同一）	意見と計画等の案の趣旨が同一であると考えられるもの
D（参考）	計画等の案を修正しないが、施策等の実施段階で参考とするもの
E（対応困難）	A・B・Dの対応のいずれも困難であると考えられるもの
F（その他）	その他のもの（計画等の案の内容に関する質問等）